3/16 赤旗

戦争いやペンに力

2000万署名 全国いっせい行動

総がかり行動実行委員会は15日、全国いっせいに「戦争法廃止を求める2000万署名」をよびかける宣伝をしました。東京都内では100カ所で実施。署名をしたりビラを受け取った人に話を聞きました。

都内の宣伝 協力者の思い

「首相は怖い」

東京都港区の虎ノ門交差点では国公労連（日本国家公務員労働組合連合会）の組合員を中心とした憲法共同センターが宣伝しました。

都内の生命保険会社に勤めるスーツ姿の女性(22)は「安倍首相は戦争に突き進むために何でもしそうで怖い」といって署名に応じました。

ビラを受け取った56歳の会社員の男性は、「不安を感じます。（戦争法で）戦争の方向に一歩踏み出したのは明らか。安倍首相のやり方もとんでもない。憲法を変えることをはしょって解釈改憲で強行した。正面からいくのを避け、側面から憲法を攻撃しておいて、いくら『国民に丁寧に説明する』なんていわれても納得できない」と話しました。

「署名しましたよ。がんばってください」と署名板を持った人に声を掛けた板橋区内に住む71歳の女性は「野党がしっかり共闘して、アメリカいいなりの横暴な政治をとめてほしい」と期待を寄せました。

「絶対に反対」

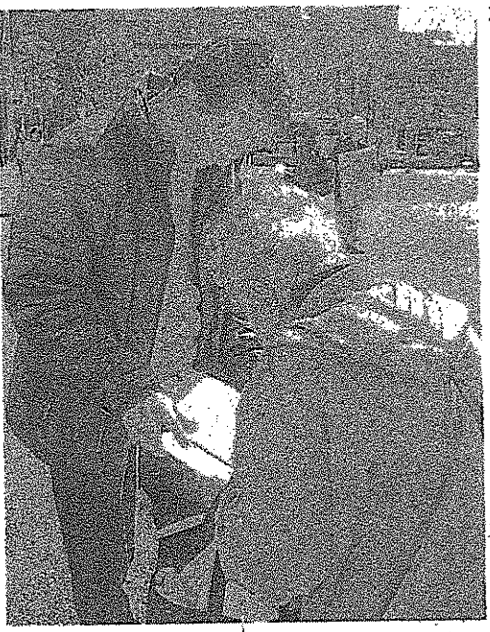
東京都調布市の京王線調布駅中央口前では、「戦争はいやだ調布市民の会」が宣伝しました。

署名した79歳の女性は、小学校3年生のとき太平洋戦争の終戦を迎えました。「戦争はもう嫌」といいます。「終戦のときは子どもでしたが、『この戦争は負ける』とおとなたちは知っていました。憲兵があちこちにいて、みんなビクビクしていました。戦争が終わったら教科書にあちこち墨を塗って、それまでと反対のことを教えられてびっくりしました。いまの子どもたちが戦争を知らずにきたのは素晴らしいことです」と話していました。

友人といっしょに署名した男子中学生(16)は「戦争は世の中からなくなってほしい」と語ります。

自転車で通りかかった井上照久さん(67)は署名し、「日本が外国から攻められたのならともかく、他の国の争いに首を突っ込んではだめ。いま南スーダンに自衛隊を派遣しているけど、あそこは内戦状態。戦争は始めるのは簡単でも、終えるのは難しい。アメリカが各地で苦しんでいるのをみればわかる」と話しました。

調布市に住む松田梢さん(70)は、終戦の年の7月に生まれました。「戦後、生活は大変だったと母から聞いています。栄養が不足して私も体が弱かった。絶対に戦争は反対」といって署名しました。



2000万署名に応じる女性＝15日、東京都調布市

何としても止めたい

東京

戦争法廃止2000万署名への協力を呼びかける田村智子参院議員（左から２人目）＝15日、東京都豊島区

東京都豊島区のＪＲ大塚駅近辺に事務所を持つ労働組合、都民団体でつくる「オール大塚の会」は、同駅前で取り組みました。日本共産党の田村智子参院議員・比例候補も参加しました。

田村氏は「日本が攻撃を受けていないのに武力行使を行えるようにするのが戦争法だ。アフリカや中東で自衛隊が命を奪う危険を許してはならない」と力説。日本共産党など5野党が共同で戦争法廃止に立ち上がっていると述べ、「署名で、国民の力で政治を変えよう」と呼びかけました。

全日本年金者組合の冨田浩康委員長は少年時代、目の前に焼夷（しょうい）弾が落ちた体験を紹介し、「日本の若者を戦争に引きずり込む法律を何としても止めたい」と訴えました。

99人が署名に協力。署名した豊島区の女性(58)は「戦争への道は誰も望んでいない。集団的自衛権を進めるのではなく、憲法9条を守ってほしい」と話していました。

戦争法廃止へ 東京100駅宣伝

声を上げ続ける

広げよう 2000万署名

戦争法廃止の圧倒的な国民の声を安倍政権に突きつけよう。15日、全国各地でいっせいに取り組まれた戦争法の廃止を求める2000万署名行動。総がかり行動実行委員会がよびかけたもの。東京都内で100カ所駅前行動として取り組んだ人、署名した人たちの思いは―。

（玉田文子、前田智也、内田達朗）

3/16 赤旗

赤をまとい「政治変えたい」

中野

ＪＲ中野駅前では、新日本婦人の会（新婦人）や安保法制（戦争法）廃止をめざす中野アピール実行委員会などが宣伝・署名行動をしました。

新婦人は、ジャンパーやジャケット、背中に9の文字がデザインされたTシャツなど、赤いアイテムを身につけた20人が参加。横断幕やプラカード、シール投票などを活用し、にぎやかに署名行動を展開しました。商店街や駅に向かう多くの人々が足を止め対話が広がりました。

赤いスカーフを羽織って行動に参加したのは、新婦人中野支部の榎本利枝さん(76)です。働いていた時に国鉄闘争を経験し、「弱いもののいじめの世の中を変えたい」という信念を語ります。これまで、近所や新聞・乳飲料配達員にも声をかけて地道に署名に取り組んできました。「政治を変えたいと、みんなが立ち上がっていると感じます。この流れを止めずに盛り上げていきたい」と話しました。

「思っているのと、声を出すのは違う。届かないかもしれないけれど、声を出せば変わるかもしれない」。こう話すのは、買い物前に署名行動に参加した鈴木由里子さん(46)です。4月から幼稚園に入る3歳の子育て中で、新婦人の親子リズムにも参加しています。子育て世代の知人に保育園に入れなかった人がたくさんいるといいます。「戦争に関わらず、安心して暮らせる政治にしたい。声を上げ続けていきたい」と話しました。

署名を呼びかける参加者＝15日、東京・ＪＲ中野駅

「私たちと同じ若者 危険に」

原宿

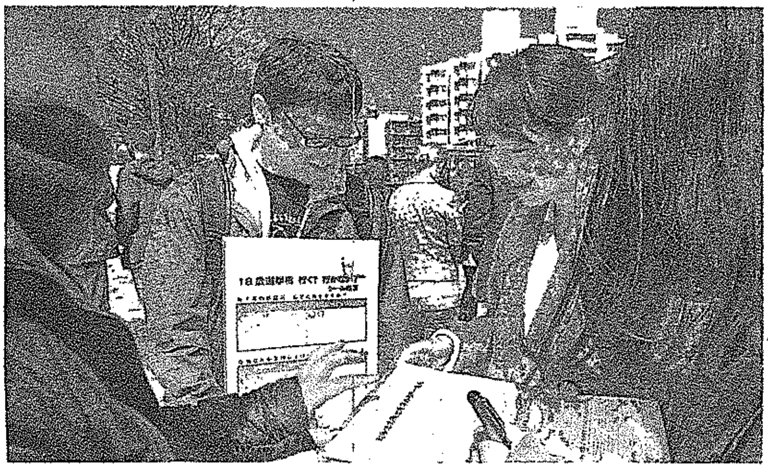
ＪＲ原宿駅前では、日本民主青年同盟（民青）中央委員会が取り組みました。買い物などに訪れた高校生と「実現してほしい政策」などをたずねるシール投票やアンケートで対話。高校生は戦争法廃止、学費引き下げ、ブラックバイト・企業の根絶の欄に次々にシールを貼りました。

「戦争法廃止」にシールを貼った女子高校生は「沖縄に行って戦争の話を聞いた。絶対繰り返しちゃいけない」と語りました。「まだ選挙権がないけど署名が変える力になるなら」と応じる高校生の姿もありました。

民青の小山農（みのる）委員長は「南スーダンの自衛隊が戦闘に巻き込まれる危険がある。現地の自衛隊員は私たちと同じ若者です。日本の若者が殺し、殺されることをとめたい」と語りました。

日本共産党の池内さおり衆院議員は「憲法を守り抜いて、若者が希望をもって生きられる社会をともにつくろう」と呼びかけました。

高校を卒業したばかりという札幌市の男性(18)は「日本は“戦争しない国”という看板を下ろしてはいけない。参院選では必ず、平和の問題についてどう向き合っているかというところをしっかり見て投票したい」と語りました。



戦争法廃止を求める2000万署名に応じる若者たち＝15日、東京・原宿駅前

学生「自分も何かしないと」

上野

上野駅周辺の宣伝では、大学院生が宣伝に協力していました。東大の大学院生、小寺稜さん(24)です。昨年の夏、国会前の抗議行動に参加したといいます。「自分も何かしないと」。大学内で行動しようと「戦争法廃止をめざす東大有志の会」のメンバーになりました。「戦争法には納得がいかない。安倍政権は改憲も公然と主張しています。このままではいけない。行動を続けます」と話しました。

「これ（戦争法）、危ないやつだ」。修学旅行中だという、新潟県新発田市の中学生数人が立ち止まり、全員が署名しました。その1人の女子中学生(14)は「学校でも、この法律を知っている人が多い気がします。この署名をきっかけに、日本が良い方向に進んでほしい」

仙台市から旅行にきていた家族3人も署名。中学3年生の息子（15）は「すごく話題になっていたけど、正直この法律が必要な理由がよくわからない。このまま進んでいくことが心配」と語りました。

2歳の子どもをベビーカーに乗せていた、東京都台東区に住むチャ・クンリョンさん（29）は韓国籍を持つ女性です。「国籍が違うからといって人任せにはしたくありません。日本に住む人として関心を持っていきたい。選挙には参加できないけれど、少しでも意思表示になれば」

東京芸術大学有志の会の呼びかけで2000万署名に応じる男性＝15日、東京・上野駅公園口

3/16 赤旗

一人一人が100人目標

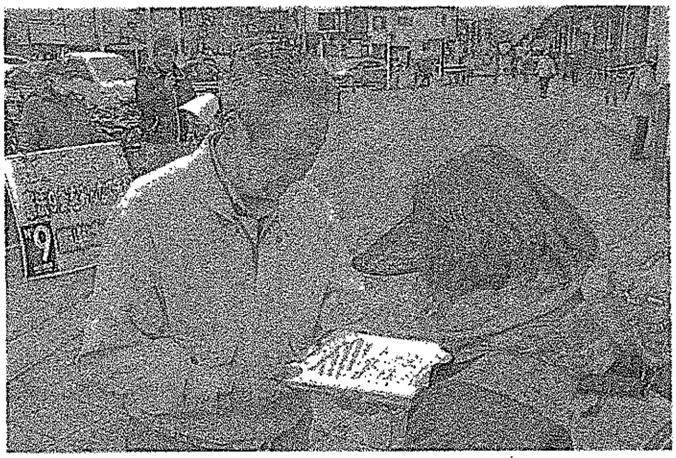
平和守る "署名レンジャー"

埼玉土建

埼玉土建一般労働組合は、戦争法廃止の"署名レンジャー"を募って、戦争法廃止の2000万署名をすすめています。レンジャーの目標は、100人から署名を集めること。署名用紙20枚をつづった独自のセットを作成しました。2月末までに1820人が登録し、159人が目標を達成しています。

（大串昌義）

2月末までに159人が達成



戦争法廃止を求めて署名活動に取り組む上家さん（手前左）＝13日、さいたま市

埼玉土建さいたま南支部は、冬のように寒い13日、さいたま市内で、憲法9条を守ろう と呼びかけるティッシュを市民に配って、署名をよびかけました。

同支部主婦の会会長の安本サヨ子さん(66)も、署名レンジャーのひとりです。7日に目標を達成しましたが、行動を続けています。

「9条が壊されれば、これからの若い人たちが戦争に行かされてしまいます。兄弟や親戚、職場、父の友人、中学3年生の孫にも署名を頼んでいます。まだまだ声をかけないと」と張り切ります。

広げよう 2000万署名

すでに50人から集めているのは、表具店の高島登志枝さん(69)。「戦争はいやですね。参院選は、安倍政権を追い込む大事な選挙です」と語り、この日は21人から署名を集めました。

「国が軍事を強化すれば、国民が貧困になるのは昔の話ではない。5野党の合意ができて、私たちの運動は進みつつあります。選挙で安倍政治変えるしかありません」

工務店を営む上家益美さん(75)は、マイクを握りました。空襲を逃れ防空壕（ごう）に飛び込んだ記憶や戦後食べ物もなくはだしで学校へ行った体験があるからこそ、平和の大切さを伝えたいといいます。

この日、同支部22分会112人が、162人分の署名を集めました。